



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.

13

キックビートのコンセプトを濃縮継承したキックビート 55mmは、70mmでは攻めきれなかったシャローエリアやハイブレッシャー状況下のセレクトティブなターゲットに対し、出来るだけスローに長い時間アピールする事で口を使わせる事を可能にしたダウンサイジングモデル。キックビート 55は、ただサイズを小さくしただけではありません。ボディ形状、ウェイトバランスも徹底的に見直し、水揚げを少し抑え70mmのアクションより少しバုပ်振動を強く設定することで、小型サイズながら高い操作性とハイアピールを実現。ディゲームや水深のあるポイント、足場の高いポイントなどで、今までのバイブレーションやミノーでは攻めきれなかった場所を狙い打てる設計となっています。

キックビート 70mm 20g 1,470円(税込) ※030.033(産卵仕様カラー)のみ1,575円(税込)



**55mm
新発売!**

キックビート 55mm 12g 1,365円(税込) ※030.033(産卵仕様カラー)のみ1,440円(税込)

KICKBEAT

背中のあたりに最大の体高を持つ菱形の一般的なバイブレーションとは違い、キックビートはボディ後方上下にヒレを配し、後方に向かうにつれて体高が高くなる抽自設計。このシルエットこそ、キックビート最大の特徴である「水揚げの強い大きな波動」を生み出す秘密が隠されています。この独自のデザインを採用することで、「水平なスイム姿勢を保ち、かつ強い波動を出す」という従来のバイブレーションの形状では成立が難しかった矛盾点をクリア。水平姿勢を保ちながら強い波動でアピールできるため、ターゲットに違和感を与えずバイトに持ち込むことが可能です。また、ヒレが矢先の矢しりの役目を果たすことで飛行姿勢を安定させ、自重と相まって更なる飛距離を生み出します。

2013 new color complete change!

実践の中で生まれた“必然”。キックビートのカラーラインナップが一新します!



カラー(左1上から): 010 産卵イグニッション、022 フルーマイグニッション(シャイン)、024 ネタルレンズ、025 レンズキャンディー(産卵)、029 チョートパールオレンジ(パール)、031 アクアオレンジ(パール)、032 ブラックキャンディー(マフマ)、033 ゴールドレインボーオレンジ(パール)、034 グリーンゴールドイグニッション、035 ヤーロ(ジャック)、036 ヒンクチャート(パール)、038 レッドヘッド(産卵パール)



伊藤が作るルアーはどうやって生まれるのか
製作者が詳細に解説するキックビート解体新書

製品開発物語③

キックビート 55mm誕生秘話!

Text by 伊藤 仁

新商品となったキックビート 55mm (12g) を開発するきっかけとなったのは、70mm 20g が発売された後に寄せられたアングラーの方々からのリアクション(使った感想や意見、今後の希望)の中に「キックビートのサイズダウンモデルが欲しい」という意見が案外と多いことに少し驚いたことが始まりでした。

その当時は、LONGIN として記念すべき第1作目のルアーであるキックビート 70mm (20g) をやっと発売できたばかりの頃で、開発作業としては第2弾の商品となる3連ジョイントタイプのシンペン「プレックス」の泳ぎの詰めと並行して、トップウォータープラグである「ジンペン」の開発に着手し始めていたタイミングだったことを



キックビート 55 の釣果は、弊社のホームページにある動画も確認して欲しい。

がシーバス用の新しいバイブレーションとして認めてもらえたからこそその意見なのだ」ということに気づき凄く嬉しかったですね。

と同時に、自分でもサイズの小さなキックビートを使用することを想定してみたら、70mmとはまた違う、思った以上に面白いルアーが作れそうだったので、「よし！ これはすぐに作らなきゃ！」とサイズダウンモデルの製作をすることに決めたのです。

キックビートのコンセプトとは？

キックビート 55mm (12g) の説明をする前に、まずはキックビートというルアーがどんなコンセプトのもとに作られたルアーなのかを

憶えています。

その頃は、新しく立ち上げたばかりの LONGIN というメーカーの姿勢というか、色というか、僕が思う LONGIN のイメージを少しでも早くアングラーの方々に伝えたいという想いが強かったので、なるべく幅広いジャンルのルアーを開発することばかり考えており、発売を終えたルアーのサイズ展開までは正直言って頭が回っていませんでした。

なので「キックビートのサイズダウンモデルが欲しい！」と言ってもらっても最初はピンときていませんでしたが、何度か違うアングラーから同じ様な意見をもらったところで「これはキックビート 70mm(20g)



お話ししたいとおもいます。

少し遠回りな説明になってしまうかもしれませんが、そうすることでより一層キックビートというバイブレーションルアーの全体像がつかめ、どんな特徴を持ったルアーなのかがわかんと思いますので、キックビートを構成する3つの特徴的な要素に沿ってお話ししましょう。

【特徴その1】形状について

一般的にバイブレーションの形状はボディの中心あたりに体高のピークがあり、後方に向かうに従って次第に細くなっているようにデザインされているものが多いです。しかし、キックビートはボディの後方上下に大きなヒレを配し、ボディの中心よりさらに後方に向かうに従って体高が高くなっていくように設計してあります。

この「ボディの後方にピークが来る形」こそが、体全体の広い範囲で水を捉え、力強いバイブレーション波動を生み出すことができる形状なのです。もちろん一見してそれとわかる見た目がキックビート最大の特徴であることはいうまでもありません。

【特徴その2】ウェイトバランスについて

通常バイブレーションのウェイト配置は背中の子より前方で水を捉えるために、前方に重さを集中させ頭を下げて泳ぐ状態をキープし



左/全てのルアー作りは、伊藤がスケッチを描き下ろすことから始まる。右/開発過程で作られたサンプルのごく一部。写真だとわかり難いが、よく見るとヒレの形状やアイの位置が0.5mm刻みで異なっており、伊藤の並々ならぬこだわりが現れているのがわかる。



波動が強だけでなくリフト&フォールも得意なキックビートは、シーバスだけでなくクロダイやマゴチなど他魚種に対しても効果を高い発揮する使いやすいパイブレーションだ。

やすいようにウェイト配分をします。しかし、キックビートは低重心で後方まで伸ばした形のウェイトを配置しています。それはなぜか？このウェイトバランスがもたらすメリットは2つあります。

まず1つ目は、立ち上がりの早さと泳ぎの強さです。フォーリングの際に頭を下げず水平な姿勢を保ちながら沈下するので、リトリーブ開始時の上に引っ張り上げられる状態からの立ち上がり早く、波動の強い泳ぎを生み出します。そのため、横方向で水平に近い角度をキープして泳ぐだけではなく、リフト&フォールなど、縦方向のアクションを繰り返す使い方も得意なルアーになっています。

2つ目は、キャストと水中でのフォール中に起こるフックとラインの糸がらみが少ないことです。ウェイトの配分がボディ後方まで分散しているので、キャスト時に頭が先行した飛行姿勢はとらず、水中での沈下も平行に近い姿勢で沈下するので、テールフックがラインを拾って糸がらみしてしまうことが本当に少ないのです。



ウエイト形状は70mmと大きく異なり、55mmのブランクに合わせて何度も試行錯誤された。

【特徴その3】 背中のアイについて

キックビート70mm(15g・20g)の背中のアイの位置は、鼻先からおおよそ20mmのあたりから始まっていますが、この位置は同じサイズのバイブレーションと比べても、かなり前方にセッティングされている部類に入ると思います。

背中のアイの位置を前方にセットすることで、リトリーブ時に前方が持ち上げられるように引っ張られ、その結果スイム姿勢が水平に近い角度で泳ぐことになるのです。この「頭を下げ過ぎずに水平に近い角度で泳ぐ」ことが、シーバスに違和感のないバイトを誘い出す要素であると同時に、水を噛み過ぎず、引き重りを感じない適度な引き心地を生む、大きな要因となっているのです。

上記3つの特徴がからみ合うことで、リトリーブ時のスイムアクションにおいても、ちょっとした水流の変化がアクション

バイブレーションは小さく重い飛距離の出やすいタイプのルアーなので、糸がらみが多いと大変なストレスをかかえながらの釣りになってしまいます。糸がらみが少ないということはとても単純なことですが、アングラーにとって非常に大切で重要な機能のひとつだと思います。



ウエイトと形状の組み合わせは無数にあるが、伊藤が求める答えはたったのひとつだけなのだ！



に小刻みなブレを入れてくれるので、ポイントの流れの状況変化が感知しやすくなります。同時に、一定スピードで巻き取るだけでもイレギュラーで細かいアクションの変化が発生するので、オートマチックにシーバスのバイトを誘い出すという機能を持った、新しいタイプのバイブレーションとも言えるでしょう。

もっと簡単にいってしまえば「縦に引いても横に引いても使いやすく、良く釣れるオールマイティな対応力を持った新しいタイプのバイブレーションルアー」が作りたかったのです。

ただのサイズダウンモデルでは意味がない!

そしていよいよここからキックビート 55mm (12g)の説明に入ります。

キックビート70mmのボディを単に55mmに縮小しただけのサイズダウンモデルを作るだけでは意味が無いというか、それだけでは自分が考えている物には全然足りないので、ま

ずは55mmのサイズが使われる実際のシチュエーションを具体的にシミュレーションすることから始めました。

何が変わり何が変わらないのかを検討し、サイズダウンすることで生まれるメリット、デメリットは何なのかをひとつひとつ確認しながら見極めて、バランスを決定していくことが大事だと考えました。



上の左から準に製品版のブランク、塗装サンプル、伊藤が作った樹脂製のマスターモデル。最新の近代化された物作りと比較するとアナログな作業が占める部分が多いが、だからこそ伊藤ならではのこだわりがたくさん詰まった独特な製品が生まれるのであろう。



そういう意味で単なるスケールダウン（縮小）ではなく、キックビート 70mmが本来持つ特性を 55mmというサイズにギュギュッと凝縮することをイメージしながら作ることをテーマにしました。

サイズを小さくすることで泳ぎの質まで小さくなってしまっはルアーの存在感（アピール力）そのものが小さくなってしまいうので、ボディの長さは 70mmに対して 55mm（約 80%）に設定しましたが、泳ぎの強さに関わる体高は、70mmの体高 20mmに対して 55mmは 18mm（約 90%）に設定し、さらに上下のヒレの頂点の位置を 70mmのバランスよりも後方に高さのピークを持ってくることで、サイズダウンしても泳ぎの力強さが消えないように仕上げました。

ルアーを 70mmから 55mmにローテーションした場合もタックルバランスまでは変えないので、同じタックルで投げた時に使用感のギャップをなるべく感じないように考慮した結果、このサイズにしては少し重めの 12g に設定しました（飛距離を極端に落さないことも重要でした）。

ルアーのサイズを落としても狙うターゲット

トの大きさは変わりませんので、標準フックはボディのサイズに合わせた #10 が前後に付いています。ですが、ターゲットが大きい場合に備え、前後 #6 のフックでも泳ぎを壊さないように、調整できるギリギリの範囲内で腹のアイ前に出してあります。



70mmと 55mmを並べてみるとただのサイズダウンモデルでないことは一目瞭然！ 伊藤の説明を聞いた後に見ると、この形状になった理由が納得できる。



55mmを使用するシチュエーションは？

いろいろと説明してきましたが、ここでキックビート 55mm (12g) が使いやすいシチュエーションを考えてみます。

まず探りやすいレンジですが、70mm (15g) の70～120cmよりも浅く40～90cm位となっているので、潮が引いて浅くなったシャローエリアを引く場合は、70mm (15g) が底をすってしまう浅い場所でも引くことができます。

そして体高と体長の比率の違いから、70mmよりもさらにスローなスピードで、しっかりとアピールする泳ぎに作ってあるので、70mmを通したレンジをさらに55mm (12g) でフォローして、より小さなサイズでさらにスローなテンポで探ることができます。これは魚の活性が低く、反応がニブいときのフォローベイトとして、キメ細やかなポイントのチェックを可能にしています。

今回のキックビート 55mm (12g) を作る上で一番大切に考えたことは、キックビート 70mm (15g・20g) との相互補完性です。異なる



55mmは単独で使っても釣れるが、他のルアーとのローテーションを考えると釣りの幅が広がって面白い！

るサイズが増えることで、他サイズの弱点を補えるような関係性のルアーローテーションが組み、釣りの面白さや釣果が伸びる可能性が広がります。そんな機能を備えたキックビート 55mm (12g) が追加されることで、バイブレーションゲームの可能性がさらに



広がると思いませんか？

キックビートを手にしたアングラーの方々にも僕が体験したのと同じ思いを感じてもらえると嬉しいですね。

なにか感じるものがあったら、使ってみて欲しい！



「僕自身は使ってワクワクするものが作れた！」という伊藤の想いを、皆さんにも体感してもらいたい。

長くなりましたが、僕が今まで3種類作ったキックビートというバイブレーションルアーをデザインするために考えてきたことを整理してみました。

今回この原稿を書いてみて、改めて自分の考えを言葉で説明するのは難しいと感じましたが、完成したルアーを使うアングラーの皆さんは、単純に投げて巻い

て「釣れる」のか「釣れない」のか、また「使いやすい」のか「使いにくい」のか、その位のことを気にしてもらえれば充分です。

だけどその先に、今回僕がゴチャゴチャ言ったことの中にひとつでも引っかかる所があって、水中でのアクションのイメージが今までよりも少し具体的になったり、ルアーの新しい使い方を見つけるヒントになって、少しでも皆さんの釣果が伸びるきっかけになれば嬉しいなあ、と思いながら独り言みたいな原稿を書きましたので、ちょっとでも参考になることがあれば幸いです。

最後に、バイブレーションの泳ぎを決定する要素というのは、今回説明したこと以外にも考えなければならないことがたくさんありま



LONGIN.として6製品目となるキックビート 55 を完成させた伊藤は、現在来年発売予定のサンプルのテスト中。次回作も伊藤らしいデザインのルアーに期待して欲しい！

す。そういったことをひとつひとつ組み合わせ、頭の中でまとめ上げた状態をひとつのルアーという形として表す、ルアーデザインが僕の仕事です。

自分が考えられる精一杯の範囲の中で、ひとつでも多くのサンプルルアーを削り出してテストに出かけ、投げては確認して修正を加えながら少しずつ完成に近づけていく。そういう地道な作業を繰り返す以外には、自分が求めるルアーを作る確実な方法はないと思いながらいつもルアーを作っています。

もちろん、これからも今までと同じような考え方、同じような方法でワクワクするようなルアーをたくさん作って行きますので、ご応援、ご愛顧頂けますようよろしくお願いいたします。



伊藤 仁 (いとう・ひとし)

株式会社LONGIN.代表。19年間勤めたルアーメーカーから独立し、株式会社LONGIN.を立ち上げる。昔ながらのアナログな手法をもちいて正確無比なサンプルをひとつずつ削りだす、職人肌のルアーデザイナー。

LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.2

弊社製品取扱店にて絶賛配布中です!



LONGIN
We create the best fishing gear in Japan since 2011

フランキー新登場!
ロングインが誇る最新鋭のフラッシュイグナー。フラッシュの強さと、カラーリングの美しさを兼ね備えた、新しいフラッシュイグナーの登場です。

**井上ゆうきが語る
キックビートの魅力!**
スペシャルインタビュー! ショートキャストに必要不可欠なバイブレーションとは、?

トランプの本面専攻がアスルトップウォーターゲームのススメ
これを知ればもっと釣れる
ジョイントルアーで
パチゲーム徹底攻略!

伊藤 二インタビュー
製品開発物語②
フランキー誕生秘話
山内 勝己ファーストインプレッション!
欲しかったルアーは釣れるサーチベイト!

今号は3大新色を含む200以上のアイテムを収録!

UOL

昨年刊行された弊社刊のフリーペーパー『ロンジンマガジン』第2号がいよいよ配布開始!

前号より大幅にボリュームアップした今号は、新製品フランキーのインプレや制作者・伊藤による開発秘話、ジンペンやプレックスを使った攻略法、そしてあの有名アングラー・井上ゆうきさんによるキックビートの解説も収録!

さらにロンジン全製品のカタログも掲載。カタログページではキックビートの2013新色ラインナップをWEBに先駆けて、いち早く紹介しています!

弊社代表の伊藤も愛読書としているロンマガ2号、ぜひ店頭にてお手に取って下さい!(ロンマガ1号はメーカー在庫切れしております。ご了承下さい)

ロンジンマガジン Vol.2

配布価格: ¥0 (フリーペーパー)

版型: A5版 24ページオールカラー

発行: 株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE Vol.10

発行日：2013年7月31日

株式会社 LONGIN.